

## 平均余命 現代シニア用語事典

ある年齢の人があと何年生きられるかを統計的にみたもので、要因として医療・衛生・食生活・福祉・環境などの水準を示すものとされており、世界有数の高い年数であることは誇るべきことである。しかし、長い高齢期を敬意をうけて過ごし、“尊厳”をもって生涯を終えられるかどうかには関わりがない。得た長い長寿を安心して暮らせる「高齢社会」をどうつくるかは、各国独自の条件のもとでのあらたな課題となる。

「簡易生命表」は、毎年7月末に厚生労働省（統計情報部人口動態・保健社会統計課）から発表される。「平成23年簡易生命表」は平成24年7月26日に公表され、詳細な数値は厚生労働省のホームページで見ることができる。

「平成23年簡易生命表」によると、男性の平均寿命（0歳での平均余命が平均寿命）は79.44年で、女性は85.90年。前年と比較して男性は0.11年、女性は0.44年ほど下回った。男女とも全年齢層で下回ったのは、不慮の事故である「東日本大震災」の影響で、女性の場合には「自殺」が減少に寄与しているという。男女差は6.46歳で、平成15年の6.97歳差をピークに毎年わずかずつ縮まりつつある。

「高齢者」の国際基準である65歳まで生存する割合は、男性は86.9%、女性は93.1%（世界一）である。75歳まで生存する割合は、男性71.9%、女性85.9%。90歳まで生存する割合は、男性21.3%、女性45.4%となっている。同じ年の出生者のうち、ちょうど半数が生存するのは、平成23年においては男性82.55年、女性88.98年となっている。

### 平均寿命の年次推移

昭和	男	女	男女差	平成	男	女	男女差
22 (1947) 年	50.06	53.96	3.90	13 (2001)	78.07	84.93	6.86
25~27	59.57	62.97	3.40	14 (2002)	78.32	85.23	6.91
30 (1955)	63.60	67.75	4.15	15 (2003)	78.36	85.33	6.97
35 (1960)	65.32	70.19	4.87	16 (2004)	78.64	85.59	6.95
40 (1965)	67.74	72.92	5.18	17 (2005)	78.56	85.52	6.96
45 (1970)	69.31	74.66	5.35	18 (2006)	79.00	85.81	6.81
50 (1975)	71.73	76.89	5.16	19 (2007)	79.19	85.99	6.80
55 (1980)	73.35	78.76	5.41	20 (2008)	79.29	86.05	6.76
60 (1985)	74.78	80.48	5.70	21 (2009)	79.59	86.44	6.85
平成2 (1990)	75.92	81.90	5.98	22 (2010)	79.55	86.30	6.75
7 (1995)	76.38	82.85	6.47	23 (2011)	79.44	85.90	6.46
12 (2000)	77.72	84.60	6.88				

注:1) 平成12年以前、平成17年及び平成22年は完全生命表による。

2) 昭和45年以前は、沖縄県を除く値である。

### 簡易生命表・平均余命 (男・女) 50歳～

歳	男	女	歳	男	女	歳	男	女
50	31.39	37.32	70	14.93	19.31	90	4.14	5.46
51	30.49	36.39	71	14.20	18.46	91	3.84	5.03
52	29.59	35.46	72	13.49	17.62	92	3.56	4.64
53	28.71	34.53	73	12.78	16.79	93	3.31	4.27
54	27.83	33.60	74	12.10	15.97	94	3.06	3.92
55	26.95	32.68	75	11.43	15.16	95	2.84	3.60
56	26.08	31.76	76	10.78	14.37	96	2.63	3.31
57	25.22	30.84	77	10.14	13.59	97	2.44	3.03
58	24.37	29.93	78	9.53	12.83	98	2.26	2.78
59	23.53	29.02	79	8.95	12.08	99	2.09	2.54
60	22.70	28.12	80	8.39	11.36	100	1.93	2.33
61	21.88	27.22	81	7.86	10.66	101	1.79	2.13
62	21.07	26.32	82	7.35	9.98	102	1.65	1.94
63	20.27	25.43	83	6.86	9.32	103	1.53	1.77
64	19.48	24.54	84	6.39	8.68	104	1.41	1.62
65	18.69	23.66	85	5.96	8.07	105～	1.30	1.47
66	17.92	22.77	86	5.55	7.49			
67	17.16	21.90	87	5.16	6.93			
68	16.41	21.03	88	4.79	6.41			
69	15.66	20.16	89	4.45	5.92			

ここでは50歳以上の高年齢者の余命にかぎって数値を引用している。

#### [ 感想と提案 ]

同じ年の仲間が半分になるのが、男性は82.55歳、女性は88.98歳という。同年の仲間には申し訳ないが、期待として自分は生存している半分にはいるとしよう。すると82歳の男性なら余命7.35である7年後の89歳のうえにさらに89歳の余命4.45を加えて93歳までと考える。そうすると11年後までの計画をたてることができる。88歳の女性の場合は同じく余命6.41を加えて94歳、さらに3.92を上乗せして98歳までの予定をたてていい。100歳の日野原さんが2年～3年後の予定をたてているのは“新老人”の暮らし方として普通のことなのである。

国際標準である65歳になったわが国の新高齢者は、男性なら18.69を足した83歳まではみんなが期待でき、その後約半分が6.86を加えて90歳まで25年の長寿期を過ごすことになる。女性なら23.66を足した88歳にさらに6.41を乗せた94歳までの29年の計画をたてることができる。日々なんの張り合いもなくぼんやりした「余生」を過ごす老後を想定することはない。

多くの仲間と多彩なコミュニテイを形成して愉快地に過ごすほうがいい。

(2012・9・1 堀内記)